資料№.４

令和５年度　子どもの貧困対策連絡会議　報告

１　開催日時及び会場

（１）日時　令和５年 10 月 13 日（金）　午後２時～午後３時 30 分

（２）会場　ながおか市民防災センター２階　研修室

２　出席者

山川委員、八木委員、内藤委員、長尾委員(子ども・子育て会議委員)
長岡市社会福祉協議会、長岡市パーソナル・サポート・センター、
長岡子ども・地域食堂ネットワーク、子どもみらい食堂
小池アドバイザー
子ども未来部長、生活支援課、福祉課、人権・男女共同参画課、学務課、学校教育課、
保育課、子ども・子育て課　職員２２名

３　会議内容

（１）あいさつ

（２）長岡市子どもの貧困とヤングケアラーの現状について

（３）各支援機関の現状と連携の課題について

（４）アドバイザーの講評

部長あいさつ

４　議　事

（２）資料№.１～４について説明。
　　意見・質問等無し。

（３）資料№.５について、支援団体、市の担当課から説明。
　　子ども・子育て委員からの意見等

・子どもの問題に関してこれだけの機関があることが分かった。主任児童委員の代表として、どこに相談すればよいかについて民生・児童委員の協議会の中で情報を伝えていきたい。

・きめ細かい支援があることが分かった。入学した時から多くの機関から支援を受けていた生徒がいた。卒業にあたって児童相談所などの支援を受け、全寮制の高校に進学することができた。学校だけでは経済的なことも含めてここまできなかった。ありがたかった。また、あうるの森に通っている生徒が「不登校動画選手権」で最優秀賞を受賞した。当校の１年生の生徒が動画編集の中心となっていた。あらゆる機関に助けてもらっている。

・なかなか就学援助を申請してくれない保護者がいた。粘り強く説得し、最近申請を出した。その際、申請した翌月から就学援助費が支給される。諸経費の未納もあるので、４月にさかのぼって支給されるとありがたい。両親とも働いているが、朝食が十分用意されていなくておなかを減らしている児童がいた。個別面談で話をしたら、びっくりして、その後、改善された。このように経済的には心配ないが、子に手をかけていないことも見受けられる。これからも関係機関と連携してやっていきたい。

・長岡市の子どもの貧困の現状にびっくりした。幼稚園協会の場で顔の見える支援の様子を伝えていきたい。

（4）アドバイザーの講評

・各機関が一堂に集まり情報を共有する会が、令和３年から継続して開催されてきたことは、長岡の強みである。この会議で「連携するとこういった成果が生まれる」という実感がもてたかどうか。その積み重ねが子どもの貧困を解決していく成果につながる。

・顔の見える関係は大事だが、見えるだけでなくて、他の団体の説明ができ、全く知らない人に勧めることができるか。目の前の支援を必要としている人に、他の団体について説明し、安心できる材料を提供できるよう、互いのことを理解したい。

・子どもの支援にあたって、行政、NPO 法人、企業がバランスのよさを保つ努力をしてほしい。昨今、支援すべき事例数が増えているだけでなく、複雑な家庭が増えており、ニーズが高くなってきている。量、質とも深刻化しているので、支援者の負担が重くなっている。一つの支援機関では重荷で、支援の手を引いてしまい、支援が必要な事例がどこにもつながらないことになる。複数の機関が連携し、バランスをとることが大切である。

・子育て世帯の人たちは家計管理が大変。所得不安定、貯蓄の無い人が家計を管理することは大変難しい。今の親たちは、子どもの時に見ていた親の時代とは経済状況が異なり、参考となるモデルが無い。前提となる経済状況が違うので、支援者が同じような発信をしてはならない。こういった家庭への支援は、どこがポイントとなるか整理していかなくてはならない。

・就学援助は待っていたら申請してくれない。申請主義に限界がきているのかもしれない。来年度の児童福祉法改正の中で家庭支援事業が始まるが、その中で「利用勧奨」が法律の中に入ってくる。申請を待っていてはいつもまでも申請してくれない、その結果、不利益をこうむるのは子どもなのであれば、市レベルで解決できないかもしれないが、踏み出せない人たちのために、新たな仕組みを検討していただきたい。

会議の様子

アドバイザーの講評